

特別な支援を必要とする児童生徒に対するICT活用

取組み内容

障がいのある児童生徒	学習者用端末(学習者用デジタル教科書、Teams、デジタルドリル、学習eポータル、MIMデジタル版)等の活用
病気療養児等	オンライン授業(コミュニケーション、授業配信等) 学習者用端末(学習者用デジタル教科書、Teams、デジタルドリル、学習eポータル、MIMデジタル版)等の活用
不登校児童生徒	オンライン授業(コミュニケーション、授業配信等) 学習者用端末(学習者用デジタル教科書、Teams、デジタルドリル、学習eポータル、MIMデジタル版)等の活用
日本語指導が必要な児童生徒	学習者用端末(翻訳機能、MIMデジタル版等)

今後の取組

障がいのある児童生徒	障がいの状態等に応じて、在籍校において、学びの困難さを軽減するとともに、能力を引き出すような指導が受けられるよう、ICTを活用した支援の充実を図る。
病気療養児等	ICTを活用した教育支援が更に行われるよう、教育機会の確保に向けた取組を引き続き推進する。
不登校児童生徒	1人1台端末を通じて教師とコミュニケーションを図り、ICTを活用した学習環境を設定
日本語指導が必要な児童生徒	ICTを活用することにより、一層の教育の充実に向けた取組を進める。

小1学びの基礎育成事業

事業の目的

学力向上



特別支援教育の充実

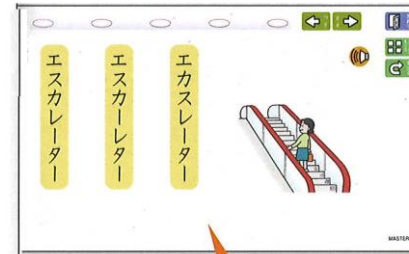
特別な支援を要する児童を確実に早期発見し、アセスメントに基づいた具体的な支援を行う。教員の指導・支援方法の多様性や、子どもの捉えの変容を促し、特別支援教育の推進を図る。

	R1	R2	R3	R4
実施校数	4校	8校	8校	14校

※令和4年度より全14小学校で実施。

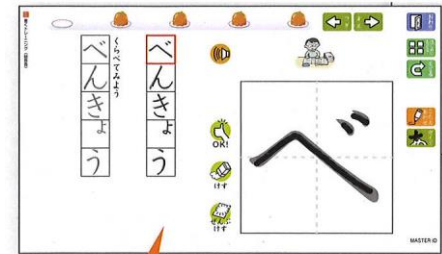
デジタル版

MIMデジタル版



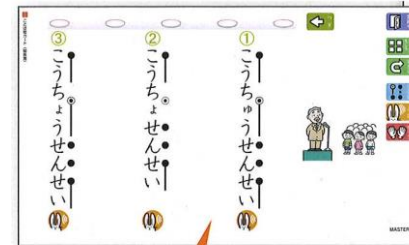
聴くトレーニング

(音読認識)



書くトレーニング

(特殊音節表記)



ことば絵カード

(特殊音節表記のルール理解)



ことばさがし

(かたまり読み)

「小1学びの基礎育成事業」の目的

「読みの力」の重要性

- ・読みの流暢性の構成する要素には、「単語を素早く正確に読む力」「語彙量の豊富さ」が含まれる。
- ・「**読みの流暢性**」と「**読解力**」は**高い関連性**があり、**学力と「読解力」も正の相関関係**にある。
- ・学習全般の基礎的な能力である「読み」の力を1年生から確実に身に付けることが、学力向上に寄与する。
→読みのつまずきは、上位学年における読みの流暢性や読解力の低下に大きく影響する。

読みの力と学力は
強く関連している

「早期発見・支援」の重要性

- ・1年生の5月の読みの結果は、学年末の結果にも大いに影響をしている(状態は持続される可能性が高い)。
- ・1年生時のつまずきは、高学年まで強い影響を与える。
- ・読みの基礎的能力が使われず、基礎的な段階でつまずいている子は、その後も年齢相応の伸びが見られない傾向にある。
- ・教師の経験的・感覚的な見立てだけでは、つまずく可能性が高い子どもを見落とす可能性がある。

子どもがつまずく前の
気づきと支援が必要

事業の仮説

★1年生の**早期段階**より、**指導・支援に直結するアセスメント**を行い、**科学的に根拠のある指導方法**を用いることで、児童の「**読みの流暢性**」が高まり、その後の学校生活の充実ならびに、上学年での**学力向上**にポジティブな影響を与えるであろう。

キーワード

早期発見・早期支援、継続的なアセスメント、科学的・効果的指導、読みの流暢性、学力向上

事業の目的

学力向上



特別支援教育の充実

学力向上

全1年児童にMIMIによる指導・支援を行い、読みの基礎的能力の定着を図る。
効果的な指導により、児童の自己有能感を高め、学習意欲の向上を図る。

特別支援教育の
充実

特別な支援を要する児童を確実に早期発見し、アセスメントに基づいた具体的な支援を行う。
教員の指導・支援方法の多様性や、子どもの捉えの変容を促し、特別支援教育の推進を図る。

多層指導モデル(MIM)について

MIMとは

「Multilayer Instruction Model」の略で、多層指導モデルの意。通常の学級において異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援を提供する指導方法。特に、子どもが学習につまずく前に、また、つまずきが重篤化する前に指導・支援を行うことを目指したモデル。通称MIM(ミム)

MIMの特徴

- 科学的に効果が実証され、多くの市町で実践されている**指導パッケージ**である。
- 特別な支援の必要性のあるなしに関わらず、**すべての子どもを対象**とした指導・アセスメントである。
- 「読みの流暢性」の向上を目指して、特に「**特殊音節**」の**指導・支援**、**語いの獲得**に強化されている。
- 子どもの伸びの状況に応じて、通常の学級において**3段階の指導形態**を実施する。
- 継続的なモニタリング・アセスメント**を併せて実施し、子どもの状況に応じたフィードバックを重視している。
- 特に**1年生を対象**にした指導パッケージであり、1年生の早い段階(5月)から実施できる。

指導モデル

【事前準備】コーディネーターの任命、年間計画作成
指導方法・理念の共通理解、教材等準備

通常の学級内での
効果的な指導

すべての子ども

1st
ステージ

5月～通常学級
学級担任による指導

● 導入前研修

校内委員会
市推進委員会

継続的なモニタリング・アセスメントの実施

複数指導体制の構築

通常の学級内での
補足的な指導

1stステージのみでは
伸びが乏しい子

2nd
ステージ

10月頃～通常学級等
学級担任+補助による
指導

● 2ndステージ
導入研修

校内委員会
市推進委員会

補足的、集中的、柔軟
な形態による特化した
指導

1st、2ndステージのみ
では伸びが乏しい子

3rd
ステージ

3学期～多様な場にて
学級担任+補助による
指導

● 3rdステージ
導入研修

校内委員会
市推進委員会

「読みの流暢性」を目指す指導

- ①音の重要性を強調し、**視覚化**、**動作化**を用いて音韻認識、特殊音節の理解を促す指導
- ②文章の中から単語を見つけ、**視覚的なかたまりとして読む**ことができる語を増やす指導
- ③日常的に用いる語彙の拡大と使用を促す指導

MIM-PMによるモニタリング

- 月に**1回程度**の頻度で、モニタリングテストを行い、子どもの伸びの状況、習得の進捗状況を把握する。
- テストは下記の2種。**各1分、計2分で実施**
 - ①絵に合うことば探し
 - ②3つのことば探し
- 結果に応じて、適切な指導・支援をフィードバックする。
- 先行研究より、子どもにとって負担が少ない、有能感を得やすいことや、80%以上の教員が「有効」と感じているアセスメントであることが実証済

科学的根拠のあるアセスメントを用いた、つまずく可能性のある児童の早期発見、早期支援

先行実施自治体

福岡県飯塚市、福岡県北九州市、東京都足立区・大田区、栃木県鹿沼市、大阪府狭山市、鳥取県 等